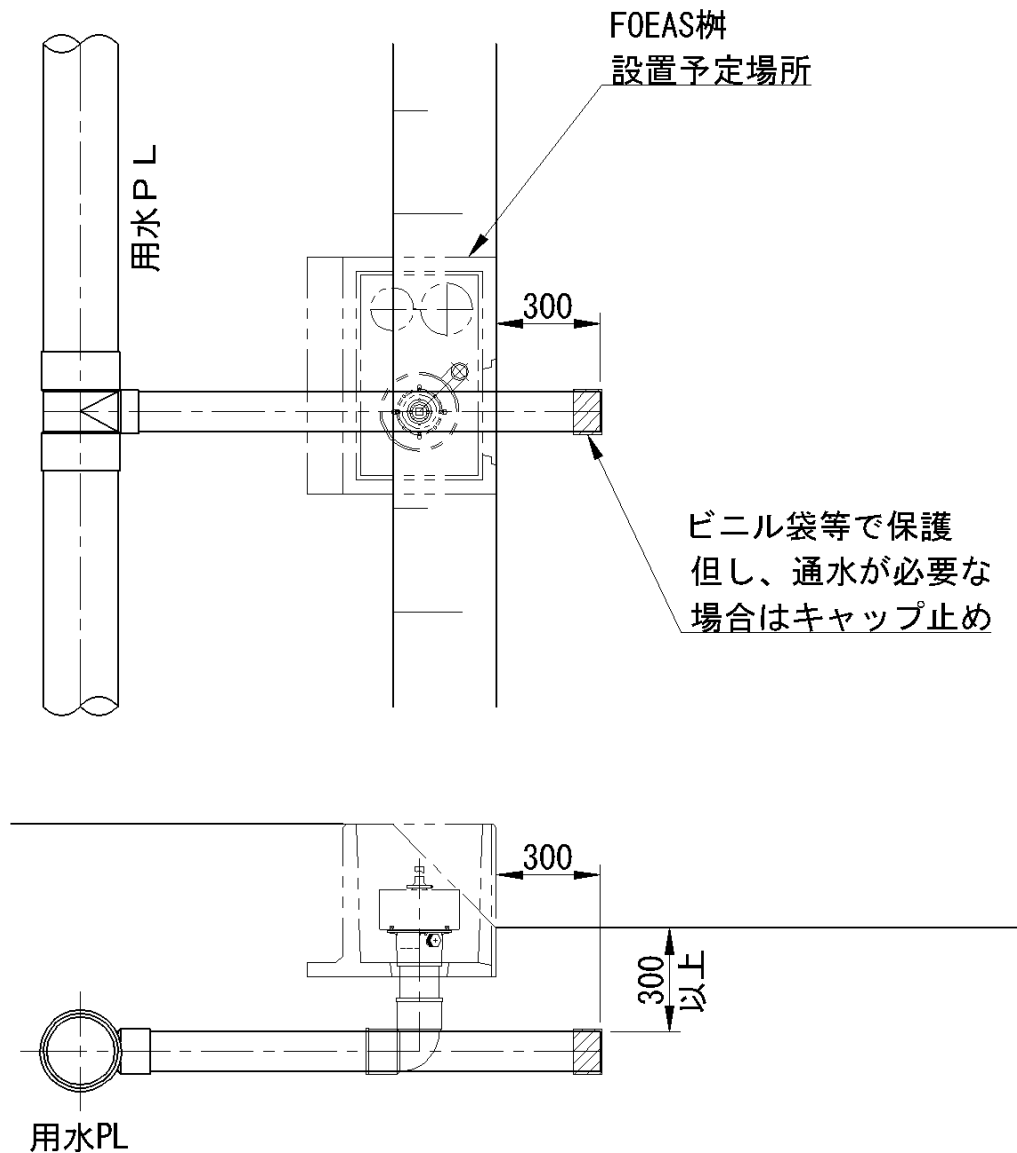


**FOEASシステムの圃場内における配管工事等が、
区画整理や用水路工事等と時期がことなる場合の注意点**

1) 用水路（管水路）工事と同時に FOEAS 柵を設置しない場合

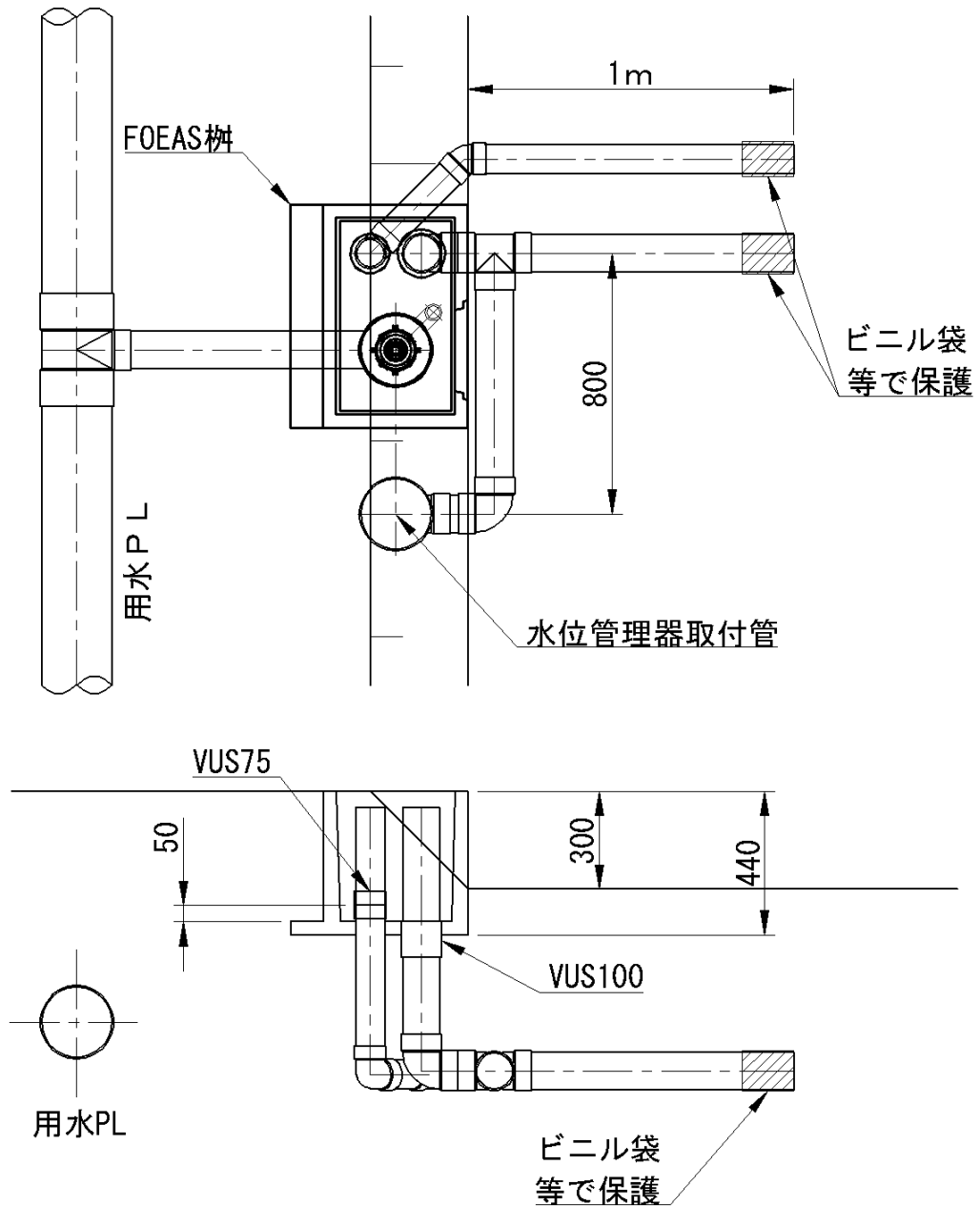
道路敷内に埋設した用水路から取水する場合、道路の法尻から圃場側に 30cm 入った位置まで FOEAS 柵内の給水栓に接続するパイプを敷設し、先端は異物が付着・侵入しないようにビニル袋等で保護する。ただし、用水路の試験通水等ある場合には、塩化ビニル製のキャップで止水する必要がある。

また、後日に FOEAS 柵を設置する際、用水路との分岐位置が特定できるように、圃場外に目印の杭等を立てる。



2) 用水路（管水路）工事と同時に FOEAS 柵を設置する場合

道路の法尻（FOEAS 柵の前面）から圃場内に 1 m 入った位置まで、幹線パイプ及び洗浄用接続パイプを敷設し、先端をビニル袋等で保護する。



注) 圃場内配管工事を行う場合、洗浄用接続パイプとポリエチレン製無孔管は異種管継手で直接接続するが、幹線パイプは、法尻から 150cm の位置でポリエチレン製無孔管と接続するため、50cm の延長を行うためのソケット(VUS100)が必要となる。

3) 圃場内配管工事の実施時期に関する注意事項

FOEAS 柵および水位制御器の高さの設定は、営農時の湛水深や地下水位設定においてその基本となることなどから、田面高の最終決定後に細心の注意をもって施工する必要がある。したがって、圃場整備（区画整理・整地・均平）後、「一作」の栽培が行われ、圃場面が落ち着いた後に圃場内配管工事（フォアス柵および水位制御器を含む）を実施することが望ましい。

一方、圃場整備工事で、FOEAS の圃場内配管工事も同時に行う場合には、以下の注意が必要である。

- (ア) 圃場内配管工事の期間を十分に確保すること。また、寒冷地では、厳冬季とならぬようにすること。
- (イ) 圃場内配管工事の際し、FOEAS 柵及び水位制御器の据付高は、田面高が確実に決定された後に実施すること（高さの変更はやり直し工事となる）。
- (ウ) 圃場内配管工事では、大量の資材（塩ビパイプ、ポリコルゲート管、籾殻等）や掘削機械等を運搬することから、搬入路を確保する必要があり、農道の整備を先行して行い早期の引渡しを検討する等の配慮が必要である。）